

ゴリラになる  
彼女は  
スカートを  
履かない

作・坂本鈴

【概要】

「現代日本の世界」と、「女性が成長するとゴリラになる世界」の人物が転移してしまう二人芝居。

北川ひかると澤田ゆうきは同じ高校のサッカー部で、付き合っている。朝練の後、体育倉庫で8時5分にキスをしたら、片方が、「違う世界で生きていた自分」と入れ替わり、世界転移してしまう。

【スカート編】では「現代日本」の女子高校生の北川ひかると、「女性が成長するとゴリラになる世界」の男子高校生の澤田ゆうきが対峙する。二人とも制服のスカートを履いている。

【ズボン編】では「現代日本」の男子高校生の澤田ゆうきと、「女性が成長するとゴリラになる世界」の女子高校生の北川ひかるとが対峙する。二人とも制服のズボンを履いている。

【登場人物】

北川ひかる 高校2年生

澤田ゆうき 高校1年生

女子高生の制服の女性の俳優が、前説をはじめ。

女性俳優 本日はご来場いただきまして誠にありがとうございます。

開演に先立ちまして、これから始まるお芝居について、説明をさせていただきます。

まず、女子高生です。はい。女子高生です。

サッカー部のマネージャーです。

同じサッカー部の後輩の男の子と、つきあっています。

で、昨日ちょっと色々あって、今日の朝、朝練の後に、体育倉庫ではじめて、キスをしたんですね。はい。

女子高生姿の男性俳優が登場。

女性俳優は北川ひかる、男性俳優は澤田ゆうきとなる。

そして、目を開けたら、彼氏が、スカート姿に、なっていて、…え？？

ゆうき …えっと…（観客に）あ、男子高校生です。

サッカー部です。で、いま、付き合ってる先輩がいるんですけど、今日の朝、そのひとと、朝練の後に、体育倉庫でキスをしたんですね。

そしたら、彼女が、スカート姿になっていて、

北川・ゆうき …え？？

北川 いや、私がスカートなのは、普通じゃないですか。

ゆうき 彼女が言うには、女子がスカート履くのは普通らしいんですよ。

北川 でも彼が言うには、男子がスカート履くのは普通らしいんですよ。

二人 は？

ゆうき いや、ちょっと意味がわからないんですけど、話をきくに、僕が今まで生きてきた世界と、彼女が今まで生きてきた世界が、ちがうっぽいですよね？

北川 それで、彼が言うには、私たちはもともと別の世界にいて、それぞれの世界でカッブルとして存在していたんじゃないかっていうんですよ。

ゆうき 思うに、別の世界で存在していたカップルが、今朝偶然、朝練あとの体育倉庫で午前8時5分にキスをして、それをきっかけに入れ替わってしまった。ということなんじゃないかとおもうんです。

北川 いやいやいや、

ゆうき いやいやいや、もちろんわかんないですよ。意味は全然わかんないですけど、仮説。

仮説として、

北川 いやいやいや、

ゆうき でもだって一瞬じゃないですか。一瞬で先輩がスカートになって髪も伸びるって、おかしいんですよ。

北川 それはこっちのセリフだけどね。

ゆうき そうですよ。そうなんですよね。だから、お互いにおかしなことが起こっているということを踏まえての、仮説です。

北川 …もっかい確認していい??

ゆうき はい。

北川 澤田ゆうき1年。(ゆうきを示して)

ゆうき 澤田ゆうき1年。(自分を示して)

北川 北川ひかる2年。(自分を示して)

ゆうき 北川ひかる2年。(ひかるを示して)

北川 サッカー部。

ゆうき サッカー部。

北川 つきあつて。

ゆうき つきあつて。

北川 (ここまであつて) うん。

ゆうき (あつて) うん。

北川 (ここからだ) で、ゆうきの、いままで生きてきた世界としては、男子の制服は、

ゆうき スカートです。

北川 …スカート。で、女子の制服は、

ゆうき ズボンです。

北川 …ズボン、で、女子は、成長すると、

ゆうき ゴリラになります。

北川 …ゴリラになる…。(頭を抱えて) えー。

ゆうき ならないんですよ。

北川 ならないよ。え、…ならないよ。  
ゆうき 不思議。

北川 だからこっちのセリフだからね。不思議だから。ゴリラになる方が。ゴリラ…、え、  
ゴリラってなに??

ゆうき え。

北川 いやなんか、どういう状態?

ゆうき 状態?

北川 けむくじゃら?

ゆうき まあ。

北川 喋れるの?

ゆうき もちろんもちろん。

北川 服は着る?

ゆうき 当り前じゃないですか。

北川 うーん。

ゆうき え。

北川 理解がちょっと。だって、そっちの世界の私、は、ゴリラってこと?

ゆうき あ、先輩はまだです。

北川 (ホッとして) そうなんだ。高校生はまだゴリラには

ゆうき なります。

北川 なるんだ。

ゆうき はい。丁度、高校生くらいからゴリラ化していつて、卒業するころにはだいたいみ  
んなゴリラです。

北川 みんなゴリラ。

ゆうき はい。

北川 男はゴリラには

ゆうき なりません。

北川 …うん。あの、…え、なんで??なんで女だけゴリラになるの?

ゆうき えー、…まあ、出産に、耐えられるように、とか?

北川 何そのふわふわした回答。

ゆうき いや、そんなのよく知らないですよ。だって、…ゴリラにならないんですよね。

北川 だからならないって。

ゆうき で、成長すると、女より男のほうが大きくなるんですよね。

北川 そうだけど。

ゆうき どうしてですか。

北川 え。…えっと、それは、あれだよ。…男は、狩りをするから、とか?

ゆうき ふわふわしてるじゃないですか!

北川 いやいや、でもさ、普通さ、普通オスのほうが大きいじゃん??自然界って大体そうでしょ。

ゆうき そんなことないですよ。ハイエナとかフクロウとかチョウチンアンコウとかは、メスのほうが大きいですし。

北川 そうなの？

ゆうき そうです。

北川 へー。(調べたい。)…ちょっとさ、携帯とってきていい？

ゆうき え？

北川 教室置いてきちゃって。すぐ戻るから。(行こうとする)

ゆうき ちょ、ダメですダメです。

北川 え。

ゆうき そんな恰好で

北川 え。(理解して) え、あ、ここ、ゴリラの世界ってこと？

ゆうき や、わかんないですけど。どっちかわかんないですけど、でも可能性としては、はい。

北川 ゴリラの世界の場合はさ、女子がこの格好してるのは、あれなんだよね。ちょっと、ゆうき そうですね。誰かに見られたら結構だいぶ、先輩の学校生活がだいぶ、だいぶ、です。

北川 ああ…。

ゆうき だって、多分僕もそうですよね。ゴリラにならない世界でこの格好だと。

北川 そう、だね。だいぶ、びっくりされる、かな。

ゆうき ですよ。

北川 まあ一応校則的には、大丈夫みたいなんだけど、

ゆうき え、そうなんですか。

北川 校則的には。でもさ、女子でスラックスの子は結構いるんだけど、男子でスカートは、ゼロだから。

ゆうき それは僕のところもそうで、

北川 え、

ゆうき 男子はスカートもズボンも履くんですけど、女子は、ズボン一択っていう。

北川 あー、

ゆうき なんでなんですかね。

北川 ねえ。

ゆうき まあでも結局そっちの世界でも、僕がスカート履いてるのは、まずいつてことですよ。

北川 まあそうだね。

ゆうき で、今いる世界がどっちの世界かは分からない、わけですよ。

北川 そうだね。

ゆうき つまり、出られないんですよ。僕たちは。

北川 まじか。

ゆうき はい。

北川 やばいじゃん。

ゆうき やばいんですよ。

北川 どうしよう。

ゆうき まあ、とにかく、どうにか元に戻る方法を試すしかないんじゃないですか。

北川 元に戻る方法って？

ゆうき それはちよっとわからないですけど。

北川 おー。

ゆうき そもそも仮説に無理がありすぎますしね。

北川 自分で言っというて。

ゆうき そうですけど、

北川 うーん、でもさ、わかんないけど、もしキスして入れ替わったんだとしたらさ、も

つかいキスしたら元に戻るんじゃないの。

ゆうき あ、なんかいま、すごい、先輩っぽい。

北川 え。

ゆうき この、すごい、シンプルな感じ。

北川 バカにしてる？

ゆうき してないですよ。

北川 …まあいいや。え、じゃあ試してみる？

ゆうき え。

北川 だから、キス。

ゆうき あー。はい。

北川 うん。

ゆうき じゃあ、はい。

二人、向き合う。

お互いに、相手がくるのを待っている。

ゆうき どうぞ。

北川 …あ、これわたしがいくやつ？

ゆうき え、あ、ちがうんですか。

北川 いや、こっちの世界だと、どっちかっていうと男性が、こう、

ゆうき あー。



北川 （そっちの世界だと）逆、かな？

ゆうき そうですね。どっちかっていうと、女性が、

北川 あー。

ゆうき どうでしょうか。

北川 じゃんけんでしょうか？

ゆうき わかりました。

じゃんけんする。ゆうきが勝つ。

北川 どうぞ。

ゆうき これ、勝った方から？

北川 うん。おねがいします。

ゆうき まあ、はい。じゃあ、どうぞ。（座らせようとする）

北川 あ、すわるの。

ゆうき はい。

北川、椅子に座る。

ゆうき 目、つぶってもらって。

北川 はい。

ゆうき じゃあ、いきます。

ゆうき、キスしようとする。

北川よける。

北川 まってまって

ゆうき え。

北川 なんかやだ。

ゆうき あ、いやでした？

北川 うん。なんか、待ってる間がなんか、嫌だ。

ゆうき あ、すみません、なんか、あの、さっき先輩からこう、されたので、

北川 私がそうしたの？さっき？？

ゆうき はい。「どうぞ」「目つぶって」「じゃあいきます」って。

北川 えー、まじかー。なんか、嫌じゃなかった？

ゆうき そうですね。なんかちよっと、ぞわっとしました。

北川 そうだね。

ゆうき　そうですね。

北川　なんかもう少し、うまくやってほしい。スマートにしてほしい。

ゆうき　そうなんですよ。

北川　そうだね。

ゆうき　あの、そっちはどんな感じだったんですか。

北川　うちはなんか、…ちよっと、こっちきて

ゆうき　はい。

北川、ゆうきを壁側に誘導し、壁ドンする。

北川　こういうやつ。

ゆうき　壁ドン。

北川　壁ドンはあるんだ。

ゆうき　流行りました。ちよっとまえに。

北川　それはやっぱり、ゴリラが、こう？

ゆうき　はい。やっぱりちよっと強引で女らしいみたいところが、流行ったって感じなんです。

北川　女らしい…

ゆうき　僕はそんなにそういうの、好きじゃないんですけどね。あれ、でもそっちの僕はそういう感じなんですか。

北川　あ、強引なみたいなこと？

ゆうき　はい。

北川　いやいや、ゆうきはね、もう全然、むしろ逆で、わりとなよよとした優しい感じ。

ゆうき　え、なのに壁ドン？からのキス？

北川　あー、それは、ちよっと、わたしがちよっと。

ゆうき　え。

北川　わたしが昨日、ちよっと言い過ぎちゃって

ゆうき　何をですか。

北川　いや、いつもなよよとして、受け身な感じだからさ、もうちよっとリードしてよっていうか、たまには男気をみせてよ、みたいな、ことを言いました。

ゆうき　男気。

北川　だから、頑張ってくれたんだと思う。

ゆうき　女気みたいなやつですかね。

北川　ん？

ゆうき　男気。あ、男気ってコトバはないので。

北川　ないんだ。

ゆうき　はい。

北川　ちなみに女気っていうのは

ゆうき　なんか、覚悟がある、とか決断できる、とか勇気がある、頼れるみたいな。

北川　男気だね。それ。

ゆうき　そうなんですね。

北川　うん。

ゆうき　で、その男気あるキスは、どうだったんですか。

北川　どうって

ゆうき　よかったんですか

北川　まあ、まあ、、

ゆうき　じゃあちよつと、こっちで

#### 場所を交代する

ゆうき　いきますね。

ゆうき、壁ドン。

北川　まってまって、え、なに

ゆうき　よかったなら、こっちで試したほうがいいかなっておもいまして

北川　いやいや、

ゆうき　いきますね

北川　まってって!!

北川、逃げる。

北川　まじで。まじでまって。

ゆうき　：あれ、そんなに？

北川　あー、

ゆうき　え、大丈夫ですか

北川　いやいや、ごめんごめん

ゆうき　どうしたんですか

北川　あの、全然大したことじゃないんだけどさ、その、今朝、痴漢にあってさ、電車で。

ゆうき　え

北川　痴漢はそんな、別に、まあよくあるんだけどさ、くしくもその痴漢の態勢が、まさ

ゆうき かのやや壁ドンで、からの、ゆうきの壁ドンだったからさ、ちょっとなんかさ、あの、

北川 いや、ごめんね、私から提案しておいて。でもね、大丈夫。急じゃなかったら、大丈夫だから。

ゆうき あの、ちかんって男がさわってくるってことですか

北川 え、うん。

ゆうき 人間なのにな？

北川 え

ゆうき いや、その、僕もよく、電車でさわられたりするんですけど、ゴリラのおばさんに。

北川 ゴリラのおばさんがさわってくるの。

ゆうき はい。

北川 やばくない？

ゆうき いや、でもおばさんはゴリラなんで。

北川 ？うん。

ゆうき ゴリラは人間より性欲が強いんで、

北川 うん？？

ゆうき 勿論キモイし嫌ですけど、なんかちょっと、仕方ないじゃないですか。でも男がさわってくるってやばくないですか。人間なんですよね。

北川 そうだけど、いや、でもゴリラが痴漢してくるのもやばいって。

ゆうき ゴリラはだって、仕方ないじゃないですか。ゴリラなんだから。

北川 しかたなくない、仕方なくないよ。ゴリラだって、え、ごりらってさ、ゴリラって何？

ゆうき なにつて

北川 どういう状態？

ゆうき だから、

北川 だから、服を着て、しゃべって、学校にも通う、んだよね。

ゆうき はい。

北川 仕事をしたり、結婚したり、も、できる。

ゆうき もちろん。

北川 人間じゃん。

ゆうき まあ。

北川 なのに、性欲だけ我慢できないとかおかしくない？ていうかそもそも、性欲が強いからって、さわっても仕方ないってことにはならないじゃん。

ゆうき ……そう、ですよね？

北川 そうだよ。大体そんな、性欲がコントロールできないくらい、本能が強くて理性が弱い生物だってんならさ、人間と暮らすべきじゃないじゃん。檻にでも入ってろっ

て感じじゃん。

ゆうき たしかに。たしかにたしかに。

北川 でしょ。

ゆうき はい。あ、いやでも、もちろんそんなことしてくるのは、ゴリラの中の、ほんと一部のゴリラたちで、ほとんどのゴリラは全然そんなことないんですよ。

北川 でもゆうきからしたらさ、どれがその一部のゴリラかわかんないわけでしょ。

ゆうき まあそうですね。

北川 だから基本ゴリラは全員警戒しなきゃいけないわけでしょ。

ゆうき そうですそうです。

北川 なのに全員を犯罪者予備軍扱いするなみたいになってきてさ、

ゆうき そうなんですよ

北川 しかも自分の属性から痴漢とかするやつが出てきたら、男はそういう生き物だから、とか、男の本能とかいうの、ほんとなんなの。

ゆうき ン？

北川 檻にでも入ってろよ。

ゆうき ……。

北川 って、おもいました。わたしも。

ゆうき なるほど。わかります。

北川 よかった。

ゆうき 僕もよかったです。先輩とこういう風に話せて。

北川 え

ゆうき いや、先輩は先輩じゃないですけど、なんか、あれなんですよ、一回先輩に話したことがあったんですけど、その、触られたりしたことを。

北川 うん

ゆうき で、凄く怒って、凄く心配してくれたんですけど、でも、スカートの丈も少し長くした方がいいんじゃないかって言ってきて、

北川 は、なにそれ

ゆうき なにそれ、ですよ。いや、心配してくれてるのはわかるんですけど、

北川 まじ最低じゃん。って、わたしか、わたしがいったのか

ゆうき いや、厳密にはちがうんですけど、

北川 そうなんだけど、え、むかつくね。なんか、かわりにあやまるわ。ごめん。

ゆうき …これ、いいですね。

北川 そう？

ゆうき なんか、ぼくも、かわりに謝りますよ。なんか、ないですか、謝ってほしいこと。

北川 えー。なんだろう。

ゆうき なよなよしてて、男らしくなくて、すみません。

北川 いや、それは、やっぱりいいや。  
ゆうき そうですか。  
北川 うん。

チャイム

ゆうき えっと、どうしましょうか。  
北川 あのさ、わたしがしていい？キス。  
ゆうき え。  
北川 うまくできないかもしれないけど。  
ゆうき あ、じゃあ、僕もします。  
北川 え。  
ゆうき あ、じゃあ一緒に、しましょう。  
北川 うん。

二人、近づく。

北川 どうしよ。じゃあ、せーの、でいこうか。  
ゆうき あ、はい。  
北川・ゆうき せーの、

幕。

「ズボン編」

ズボン姿の澤田ゆうきと北川ひかるが向き合っている。

澤田 もっかい確認していいすか  
ひかる うん。

澤田 北川ひかる、2年

ひかる 北川ひかる、2年

澤田 澤田ゆうき、1年

ひかる 澤田ゆうき、1年、

澤田 つきあってる

ひかる つきあってる

二人 うん

澤田 で、先輩の、いままで生きてきた世界としては、女子の制服は、

ひかる ズボン

澤田 ズボン。で、男子の制服は、

ひかる スカート

澤田 スカート、で、女子は、成長すると、

ひかる ゴリラになる。

澤田、こらえるが、こらえきれず爆笑

ひかる おい、なにがおかしいんだよ。

澤田 いや、すみません、ゴリラってちょっと、パワーワードすぎて。

ひかる は、

澤田 いやいや、だって、それが本当なら、え、先輩はこれからゴリラになるってことじゃないすか。

ひかる そうだけど

澤田 …いや、だってそれ、え、ほんとなんすか。

ひかる そうだっていつてんじゃん。…え、なに。

澤田 えー、いや、あの、嫌じゃないんですか。ゴリラですよ。

ひかる いやじゃないけど、全然。なんで。

澤田 なんてって、なんか、可愛くなくなっちゃう、みたいな

ひかる ……あのさ、私ちょっと、女なのに可愛いとか言われるの結構、嫌なんだけど

澤田 あ、すみません。

ひかる そりゃ、背は低いけどさ、でも女だし。

澤田 はい。

ひかる ゆうきはさ、そういうの言わないところが、すごく、いいなっていうところだったからさ、なんか、そういうこと言うんだ、みたいな。

澤田 すみません。いやなんか、文化がちょっと、違うんで

ひかる まあ、そうなんだろうけどさ、

澤田 いや、でも、すみません。気を付けます。

ひかる うん。

澤田 でもじゃあ、本当に、本当にゴリラになるんすよね。

ひかる だからそうだって

澤田 不思議。

ひかる それはこっちのセリフだから。女がゴリラにならないって、え、ゴリラにならないってなに。

澤田 え。

ひかる どういう状態？

澤田 （ひかるを示して） こういう状態です。

ひかる 男より小さい。

澤田 わりとそうですね。いや、ひとによりますけど。

ひかる で、スカートを履いて

澤田 はい。

ひかる 化粧したり、髪のぼしたり。

澤田 はい。

ひかる 気持ちわる！

澤田 気持ち悪くないですよ！

ひかる だってそういうのはさ、男がやるもんじゃん。

澤田 そっちではそうなんでしょうけど。

ひかる いやでも普通さ、自然界とかではそうでしょ、オスが着飾るのが普通でしょ。孔雀だってライオンだって、派手なのはオスのほうだし。

澤田 そんなことないですよ。オオハナインコとかタマシギとかナガサキアゲハとかはメスのほうが派手ですし。

ひかる ……そうなんだ。

澤田 はい。

ひかる なんかデジャヴ。

澤田 え。

ひかる 好きだよね。そういうの。

澤田 まあ、そうっすね。

ひかる 自然界の法則的にさ、こういうのないの、こういう、2つの世界が入れ替わるみた



いな。その対処法みたいな。

澤田 うーん、まあ宇宙論みたいなのにはちょっと引つかかるかもしれないですけど、よく知らないです。

ひかる 宇宙論？

澤田 パラレルワールド的な？

ひかる なんかに聞いたことある。

澤田 や、でもゴリラの世界とかいいはじめたら、多分ちょっと、宇宙論とかでも、カバ

ひかる まあそうだよな。

澤田 はい。

ひかる や、でもさ、これを、キスして入れ替わったんだったらさ、もう一回キスしたら元にもどるんじゃないの。

澤田 あ、なんか、いまのすごい、先輩っぽいす。

ひかる は

澤田 すごい、シンプルな感じが

ひかる 馬鹿にしてんの

澤田 してないす。すみません。

ひかる え、じゃあする？

澤田 え…、あ、はい。

ひかる じゃあ、どうぞ。

澤田 座るんすか。

ひかる うん。

澤田 はい。

ひかる 目つぶって。

澤田 はい。

ひかる、キスしようとする。

澤田、嫌がる。

澤田 ちょ、ちょ、ちょっと、

ひかる なに。

澤田 ちよっと…嫌っすね。

ひかる え。

澤田 なんか怖いす。

ひかる そう？

澤田 そうすね。なんか、待ってる間が、

ひかる あー、え？

澤田 あの、無言？みたいな。

ひかる なんかに言ったほうがいいってこと。

澤田 いや、わかんないすけど。

ひかる いきまずとか。

澤田 いきまず？？

ひかる え。

澤田 いきまず、はおかしくないすか。

ひかる そうかな。

澤田 いや、いきます、はないすね。

ひかる じゃあそっちはさ、何、どうやったの。

澤田 え、僕はなんか、、あ、ちょっと、こっちきてもらって。

ひかる うん。

澤田 こういう、

ひかる あ、壁ドンか。

澤田 壁ドンはあるんすね。

ひかる あるある。流行った。いいじゃん。壁ドン。

澤田 あー、でもなんか、あんまり

ひかる あんまり？

澤田 嫌がってたかも、みたいな？

ひかる え。

澤田 なんかにちょっと強引にいつちゃったっていうのはあるんすけど、

ひかる うん。

澤田 でもそれは、そもそも先輩から、もうちょっと強引さが欲しいみたいなことを言われたからなんすよね。男らしくしてほしいみたいな。

ひかる ゴリラらしい、みたいなことかな、多分。

澤田 あ、多分、はい。

ひかる なるほど。で、強引にゴリラらしく壁ドンした結果、

澤田 なんかに嫌そうで。

ひかる それはきついな。

澤田 そうっすよね。なんかもう、ちょっと、無理かもなーってなってる

ひかる 無理かもって

澤田 だから、まあ

ひかる 別れるってこと

澤田 いや別れたいわけじゃないんすよ。別れたいわけじゃないんですけど、でも、ちょっと、自信が

ひかる いやいや、大丈夫だって。なればいいじゃん。ゴリラらしく。なれるよ。

澤田 いやでも、

ひかる まあ、わかるよ。わたしもまだゴリラになってないから焦るけど。でもやっぱ、諦めたらだめじゃん。

澤田 先輩は、ゴリラになりたいんですか。

ひかる そりゃあね。

澤田 なんですか

ひかる え、まあ普通にかっこいいし、

澤田 かっこいいんですね。ゴリラは。

ひかる あとやっぱサッカーで不利だしね。ゴリラに混ざってプレーするのは。

澤田 あれ？え、先輩ってプレイヤーなんですか

ひかる え、うん。

澤田 えー、そうなんすね

ひかる え？

澤田 いや、僕の世界の先輩はマネージャーなんで。

ひかる うそ。マネージャーやってるの、わたし。

澤田 はい。

ひかる なんで？ケガとか？

澤田 あ、いや、高校になくて。女子サッカー部が。なんで、男子サッカー部のマネージャーについていう。

ひかる 男子サッカー部に女子マネージャー。

澤田 はい。中学まではサッカーやってて上手かったみたいなんで、勿体ないなと思うんですけどね。

ひかる 男子サッカー部に女子マネージャーってさ、普通？

澤田 え？

ひかる あ、うちは逆だからさ。

澤田 あ、女子サッカー部に

ひかる （澤田を示して）男子マネージャー。

澤田 僕マネージャーなんですネ。

ひかる うん。あの、いいマネージャーだよ。すごく優秀。

澤田 そうなんすね。いや、ぼくマネージメントにも興味があって、でも男子でマネージャーってそんな多くないんで、なんか、あれだったんですよね。そっか。

ひかる うん、なんか色々よく気が付くし、かわいいし、ゆうきがいると華やぐし、みんなの土気もあがるしね。

澤田 …なんか、そういう感じなんですネ。

ひかる そういう感じ。ゆうきはほんとになんか、男の子って感じだから、女だらけのむさ

くるしい中にひとりそういう子がいるとき、いいんだよね。癒されるし、やる気であるし、みたいな。

澤田 あ、先輩ってぼくのこういうところが好きなんですか。

ひかる えー。まあやっぱり、かわいいところだね。あとやさしいし、男の子らしいところが、いいなっておもってる。

澤田 そうなんすよねー。

ひかる え？

澤田 先輩そういうところあるんすよねー。

ひかる なになに。

澤田 あ、僕やっぱちょっと無理かもです。

ひかる なにが。

澤田 これから先輩とつきあっていくのが。

ひかる 別れたいってこと？

澤田 別れたいわけじゃないんですけど、でもちょっと自信が。

ひかる ゴリラらしくなれる自信？

澤田 というか、

ひかる 大丈夫だよ。なれるよ。いまからでも全然、ゴリラしくなれるし。

澤田 いやそうじゃなくて、別になりたくないんすよね。

ひかる え。

澤田 そのゴリラらしく？っていうものに、なりたくないんすよ。僕。あんまり。

ひかる え、なんで？

澤田 うーん、

ひかる うそうそ、ちょっと何、わかるように説明して。

澤田 なんていうんすかね。その、らしさ、みたいなものに価値をかんじてないっていうか、

ひかる うん？？

澤田 たとえばなんですけど、動物だと、メスらしさ、オスらしさ、というのはその種族ときにはかなり確固たる価値があるものじゃないですか。タテガミが長いのがオスらしい、歌がうまいのがオスらしい、とか、羽根がキレイなのがメスらしい、いい匂いをするのがメスらしいとか。

ひかる うん。まあ、そうなんだね。

澤田 そうなんです。それはやっぱり本能とか習性とかいうもので、すぐ固定された価値なんだとおもうんですけど、いわゆる人間の男らしさとか女らしさとかゴリラらしさとかって、おそらく本能っていうよりはかなり文化に基づいたものなんだと思うんですよね。だからぶっちゃけ後付けだし、簡単にかわっちゃうし、いい加減じゃないですか。だから全然信用できないっていうか。価値を信じられないんで

す。

ひかる （わかんないなりに）う、うん、なるほど。そうなんだ。

澤田 そうなんすよ。でも先輩って、結構大事にしてるじゃないすか、この価値を。そのゴリラらしくありたいとか、男の子っぽいところがすきとか、男らしくしてほしいとか、そういうやつを。

ひかる まあそうかな。

澤田 ぼくも先輩の気持ちにはこたえたいとはおもうし、価値を信じてなくても擬態することはできるかもしれないとおもって、頑張って壁ドンとかしてみたいんですけど、

ひかる 嫌がられてしまった。

澤田 そうなんです。だし、僕も全然、たのしくなくて、擬態が。

ひかる あー…。

澤田 だからなんか、自信がないんす。これからやっていく自信が。

ひかる そうかあ。いやでも、えー、まってよ。だって、えー。

澤田 いやでも、僕の方はってことなんで、はい。

ひかる いやいや、ていうかこっちなんか、やばいんだよね。

澤田 え。

ひかる なんか、ヤバい感じなんだよ。

澤田 うまくいってないんすか。

ひかる うん。なんか、にこにこしてるんだけど、スンってしてる感じがある。

澤田 スン…。

ひかる こう、スン…って。

澤田 それ。ため込んでるかんじしますね。

ひかる なんでため込むんだよ。言ってよ。

澤田 そうすよね。いや、でも、言えないんすよ。

ひかる 何をため込んでるんだろう。

澤田 心当たりないんすか。

ひかる うーん、あれかなー、でもなー、

澤田 なんすか。

ひかる ゆうきが、結構痴女に遭うらしいんだけど、電車で。

澤田 痴女。

ひかる 触られたりするんだって。ゴリラのおばさんに。

澤田 なんすかそれ。ゴリラが触って…、めちゃくちゃ怖いじゃないですかー！

ひかる そうだね。そうだとおもう。ほんとに同じ女として許せないんだけどさ、そういう

うのマジで。

澤田 そうすよね。

ひかる そうなんだよ。

澤田 え、で？

ひかる …いや、で、その話をきいてから、くらいから、スンってしてる、きが、する。

澤田 なんですか。

ひかる わかんないんだよね。

澤田 なんか、何喋ったんすか。

ひかる だから、許せないなって話と、気を付けてねっていう話。

澤田 具体的には？

ひかる えー、できるだけ送るよとか、あとスカートとか結構、短いからさ、もうちょっと長くしたら？とか、いった、かな。

澤田 あー……、

ひかる え、やばかった？

澤田 いや、え、わかんないですけど、僕たちスカート履かないじゃないですか。  
ひかる うん。

澤田 電車で触られたりとかもないですよ。

ひかる うん。ない。

澤田 サッカーやったことないひとに、「次の試合でバンバンシュートしたら点とれるんじゃない」とか言われたらむかつくじゃないすか。

ひかる え、むかつく。だってめっちゃ練習してるし、お前が考えてることくらいはこっちは100回くらい考えてから試合してっからっていう、……っていうことか。

澤田 なんじゃないですかね。

ひかる …あれ、まって、わたし最低じゃない？？

澤田 わりとやばいかもしれないですね。

ひかる なんてそんなこといっちゃったんだろ。

澤田 なんてそんなこといっちゃったんすか。

ひかる 悪気はなかったんだよ。全然。ただ力になりたいっていうか、彼女として、女として、まだゴリラじゃないけどゴリラとして、ゆうきの力になったかっただっていうか、わかりますよ。わかりますけど、でもサッカーしたことない人が、力になりたいと思っただけ悪気なくアドバイスにきたら、

ひかる 舐めてんのかって思う。

澤田 ですよ。

ひかる 舐めた真似をしてしまったー…。

澤田 かもですね。

ひかる 怒ってるかな。

澤田 怒ってるならいいですけど、

ひかる え。

澤田 スンってなったらちょっと、やばいかもですね。

ひかる やばいっていうのは、別れたいみたいな、

澤田 かもです。

ひかる えー、

澤田 わかんないですよ。わかんないですけど、決意してるかもしれないです。

ひかる うそ、どうしよう、どうしよう。

澤田 うーん。

## 間

ひかる もう駄目なのかな。

澤田 いや……。

ひかる 私は舐めた真似をしてしまったし、むこうの私も、ゆうきをすごくこまらせているし、わたしたちはもうだめなのかな。

澤田 どうですかね。

ひかる ……せめてさ、せめて、そっちはどうにかならないの。

澤田 え、こっちですか？

ひかる むこうのわたしのことはわからないけど、わたしは、ゆうきのやさしい、気の付く、男の子らしいところも確かにいいなっておもってる。けど、だけど、なんか理屈っぽいところもすきだし、生物のことを色々話すところもいいなっておもうし、今のわたしは、この今のゆうきのそういう、私が考えてないことを色々考えてるところも、いいなっておもってるから。だからたぶん、むこうのわたしも、ゴリラらしくないゆうきのことも、ちゃんと好きだと思う。

澤田 そうですかね。

ひかる 多分。だから、だからさ…、

澤田 …あの、僕も、向こうのぼくのこととはわからないですけど、でも僕は、先輩の、気持ちちゃんとなつたえてくれるところに救われてきたし、今も、この今の先輩の、悪いと思ったらすごい反省するシンブルさとか、こうやって、まっすぐ言葉をぶつけてきてくれるところとか、いいなってると思うんで、多分、大丈夫だとおもいます。

ひかる そうかな。

澤田 多分。

ひかる ありがとう。がんばる。

澤田 僕も、もうちょっと、がんばってみます。

ひかる うん。

## チャイム

澤田 えっと、じゃあ、してみましようか。  
ひかる うん。

澤田 え、どうしよう。

ひかる あ、握手、していい？

澤田 あ、はい。

二人、握手する。

ひかる じゃあ、せーの、でいきましようか。

澤田 うん。

二人 せーの

幕